



2015年
新年号

九州旅客鉄道労働組合
福岡市博多区博多駅前2丁目3-23
TEL 092-472-7950(代)
URL http://www.jr-krwu.org
発行人/許斐元文 編集人/木村智隆

発展と継承を 確かなものに



「御来光」
撮影/福岡地本
運行管理分会 那須 正則氏



中央執行委員長
許斐元文

皆さま、あけましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、つがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年の衆議院解散総選挙は、「消費税率の10%への引き上げを当初予定の2015年10月から1年半先延ばしにする決断の是非を問う」とともに、『アベノミクス』と呼ばれる経済政策への支持・不支持を問う」と、安倍首相は衆議院を解散し、12月14日に投票が行われました。その結果は、皆さんご存知の通り、我々の期待とは裏腹に自民党の圧勝となりました。今後、我々働く者にとって必要不可欠な労働法制の規制緩和に力を注がれることになると思われませんが、何としても我々はそのような改悪については、今後も堂々と反対の意を唱えなければなりません。

さて、お正月ですので、少し楽しいお話をしましょう。昨年は「お正月のいわれ」についてお話ししましたが、今年はお節料理についてお話しします。

もともと季節の変わり目の節句に、神様にお供えた食べ物をお節料理と呼んでいましたが、やがて、節句の中でも、最も重要な正月の料理のことを「お節料理」と呼ぶようになりました。

いくつかご紹介いたします。「紅白蒲鉾」は、日の出を象徴するものとして、元旦にはなくてはならない料理です。「伊達巻」は、江戸時代、長崎から江戸に伝わった「カステラ蒲鉾」が、伊達者たちの着物に似ていたので伊達巻と呼ばれるようになりました。また、昔は大事な文書や絵は巻物にしていたので、おせち料理には巻いた料理が多くあります。

黄身と白身の2色が美しい「錦玉子」

古き良き伝統を継承しながら、新たなものに挑戦しよう!!

は、その2色が金と銀にたとえられ、2色を「錦」と語呂合わせした正月料理として喜ばれます。

「栗きんとん」は、黄金色に輝く財宝にたとえて、豊かな1年を願う料理で、日本中どこにでもある栗は、山の幸の代表格で「勝ち栗」と言って、縁起が良いとして尊ばれてきました。

「黒まめ」は、黒く日焼けるほど達者に働けるようにと邪気を払い長寿と健康を願ったもので、「まめに働く」などの語呂合わせからも、おせち料理には欠かせない料理です。

昆布は「喜ぶ」の言葉にかけて、正月の鏡飾りにも用いられている一家発展の縁起もので、おせち料理では、煮しめの結び昆布、昆布巻となかなかの活躍を見せています。

「田作り」は、五穀豊穡を願う小魚を田畑に肥料として撒いたことから名付けられたもので、片口鱒の小魚を使った田作りは、関東でも関西でも祝い肴3品のうちの1品です。「数の子」はニシンの卵で、二親から多くの子が出るのでめでたいと、古くからおせちに使われています。

このように「おせち料理」はお正月の神様、年神様に供える料理であり、家族の幸せを願う縁起ものの料理でもあります。ですから、五穀豊穡、家族の安全と健康、子孫繁栄の祈りを込めた、海の幸、山の幸を豊富に盛り込んだものなのです。

最近では、若い世代を中心に、お節料理を作らない人が増えてきているようですが、お節料理を口にしなければお正月は始まらないと思っっている感覚は、今でも日本人の心の中に根付いている様な感じがします。私もこういって日本人の心を大切にしながら、この一年頑張っていきたいと思っっています。

最後に、皆さまとご家族にとりまして、この新しい年がより良い年であり、ますよう心からご祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願ひ致します。

2015年 年頭あいさつ

明るく、逞しく 前進する一年に



J R連合会長 松岡 裕次

新年あけまして、おめでとうございます。日頃より J R連合運動へのご理解、ご協力に感謝致します。加えて、年末年始輸送や昨年末の衆議院議員選挙への対応等に重ねて御礼申し上げます。年頭にあたり、当面する課題と決意を述べます。一点目が安全の取り組みです。J R連合は「すべての J R関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」を最終目標に取り組んでいます。重大労災は減っていませんが現状です。特にグループ会社や協力会社の社員が受傷するケースが多く、J Rグループ会社・協力会社の三位一体で安全を創り上げていくことが必要です。二点目が政策課題実現の取り組みです。J R連合は短期的な課題を毎年の「交通重点政策」として、議員懇・議員フォーラム・関係省庁などへ働きかけを行う一方、中長期的な課題は3つのプロジェクトチーム(P T)において検討を重ね、その結果、「三島・貨物経営安定化 P T」においては、昨年10月に最終答申が示されました。今後、答申に盛り込まれ

た提言を「有言実行」すべく、関係者と連携を図っていくと同時に、残る2つの P Tについても結論が得られるよう議論を継続します。三点目が政治活動の取り組みです。今年4月には統一地方選挙が施行され、多くの組織内議員が改選期を迎えます。地域公共交通を担う J Rにとって、自治体との連携は、ますます重要になります。組織内議員の皆さんに自治体と J Rの「架け橋」になっていただき、地域活性化にむけて共に汗をかいていきたいと考えています。四点目が組織の取り組みです。J R連合は目下「10万人組織」の達成に向けて取り組みを進めています。組織強化・拡大は一朝一夕で実現するものではありません。民主化闘争の取り組みを含めて、地に足をつけた運動を愚直に推し進めていきます。最後に2015春季生活闘争の取り組みです。輸出型の製造業は不安で一定の利益を確保しているものの、内需産業は原材料費高騰などにより厳しい状況に変わりがあります。我々 J Rは本州3社を中心に概ね好調な経営を続けており、会社が黒字を計上し、世代交代を含めて生産性を向上させている以上、その対価を求めているのは当然です。今春闘でも実質賃金の向上を求め、交渉を展開すべきと考えます。さらに、グループ会社

社なくして、J R産業はもはや成り立ちませんし、「人材の確保と育成に資する人事・賃金制度」の構築など、課題は山積しています。今春闘では、グループ労組の積極的な支援にも取り組めます。このように多くの課題に對し、この1年も先頭に立ち、闘う決意をお誓い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

目指していく姿勢を 確かなものに



福岡地本 岩永 康志

新年明けましておめでとうございます。今年も十二支8番目となるヒツジ年です。漢字で「末年」と表記されますが、この文字を見て、ふと、未だ成されていないものは何であろうかと考えてしまいます。様々な分野で、数多く思い浮かぶ事柄の中、やはり、一番強く思い浮かぶものは、「未だ必達目標に到達していない賃金水準」です。言うまでもなく、その最大の要因は、春季生活闘争に代表される社会性を帯びた賃上げの相場形成が長きに亘って困難を極めたからなのですが、昨年、今年と、その長いトンネルから、やっと抜け出しつつあると判断しています。一方、この間、J R九州

労組が、いつ・どのような事があるとも取り組んできた「目指していく姿勢」は、組合員による調査活動の継続展開など、揺るぎない着実な取り組みであったと考えています。こうした地道な調査活動の積み重ねが何より大切であり、時間がかかるかも知れませんが、共通の成果を生み出すことに必ず繋がるものであると確信しています。「調査なくして要求なし」、「要求なくして交渉なし」、「交渉なくして改善なし」のスタンスのもと、役員に止まらず、全組合員が先頭になって、今年も奮闘していきましょう。

働きがいのある J R 九州グループの創造を



長崎地本 岩口 保則

組合員、ご家族の皆さま、新年あけましておめでとうございます。昨年は、安倍政権において、消費増税の影響による物価上昇により一般家庭への負担も大きくなり、これから景気が失速する可能性があります。また、少子高齢化社会へ突入した日本において、九州でも人口減が続いています。しかしながら、J R九州の上期決算は、営業利益、経常利益とも過去最高益を挙げ、グループ会社と共に

株式上場に向け、さまざまな取り組みを行う中、その実現も目前に迫っていると感じています。私たち J R九州労組では、役員世代交代が大きな課題とされており、その組合活動の原点である分会活性化と、世話役活動の重要性を主とした運動を展開していきたいと考えています。J R九州労組が、上場企業に相応しい労働組合であるとともに、今以上に働きがいのある J R九州と J R九州グループの創造に向け、本年も、長崎地本役員一丸となり邁進するとともに、組合員の皆さんと共に、協力・一致結束して頑張っていく決意です。

「安全最優先」の 企業創りを



大分地本 玉井 成之

組合員並びにご家族の皆さま、新年明けましておめでとうございます。昨年末、安倍政権による「大義なき解散」総選挙となりましたが、私たちの暮らしは良くなるどころが、取り巻く環境は厳しさを増すばかりです。こうした流れを止めるためにも、本年4月に施行される統一地方選挙の勝利に向けて、推薦する候補者全員の当選に向け共に頑張りましょう。また、昨年は自然災害の脅威を感じた年でもありました。J R九州でも2月には大雪による倒木により、久大本線で列車脱線事故が発生、6月には観光特急「指宿のたまて箱」が、大雨により線路内に流入した土砂に乗り上げ脱線し、多くのお客さまにご迷惑をおかけすることとなりました。私たちはこのような事態を深刻に受け止め、今一度「安全最優先」の企業を創るために最大限の努力をして行かなければなりません。2015春闘では、上場会社に相応しい労働条件を確立すべく、「働く者が報われる労働環境」の実現と、賃金アップを勝ち取る必要があります。

また、今春には「新大分駅ビル」が開業し、駅周辺の交通のアクセスも見違えるほど変化することが想定され、市街地の活性化を加速させることが重要です。今年も、J R九州・J R九州グループの発展と、そこに働く全ての労働者・ご家族の皆さまの生活向上に向けて、その先頭に立ち、頑張っていく決意です。上場会社に相応しい労働環境の整備を

上場会社に相応しい 労働環境の整備を



熊本地本 坂本 和哉

組合員並びにご家族の皆さま、新年明けましておめでとうございます。

昨年は、年明け2月に九州阿蘇地方を中心に大雪が降り、慣れない雪かき作業を行いました。また桜島・阿蘇山などの噴火、夏期も低温多雨で晴れの日が少ない異例の年でした。一方政治に目を向けますと、集団的自衛権の解釈拡大における閣議決定や、「アベノミクス」における労働関係法制の改悪など安倍政権への危機感を感じています。こうした状況を打破するため、我々は、本年4月に施行される統一地方選挙における推薦候補全員の「必勝」に向け、組合員・家族への丁寧な説明と「何故、私たちが政治活動に取り組むのか」を訴え、組合員・家族総がかりの選挙とすべく、重要な取り組みです。会社は、株式上場を2016年度までに実現するとしていますが、我々も、労働組合として、来年度で時限立法切れとなる「税制特例」など、国や地方自治体に対してご理解・ご協力をお願いする行動が必要ですので、上場会社に相応しい労働条件を確立すべく、2015春闘は「賃金は最大の労働条件」を基本に、安全で安心した雇用や生活環境が実現出来るよう積極的に取り組んでいきます。

明るい明日のために

鹿兒島地本 江口 洋一 新年明けましておめでとうございます。昨年は年末の衆議院解散総選挙が物語るように、安

倍首相の庶民生活を顧みない「アベノミクス」により、一部の企業と富裕層のみがその恩恵を受け、九州をはじめとする地方や中小企業労働者との格差が広がった一年でありました。そのような中、私たち J R九州労組は公共交通機関としての J R九州の責任と役割を守りながら、地域住民との共存を図るために昼夜を分かたず安全最優先で安全安定輸送に努めてまいりました。しかし、順調な決算状況が続いている J R九州ではありますが、まだまだ国からの経営支援策に頼るところは大きく、そうした政策課題解決のため、国会議員をはじめ、各地方自治体でも私たちの運動に理解をして頂く議員が必要です。そのため、本年4月に行われます統一地方選挙に必勝を期さなければなりません。また、株式上場を実現できる経営基盤を創り上げてきたのは、私たち J R九州労組であり、上場会社に相応しい労働条件を勝ち取り、明るい明日となるよう組合員と共に奮闘してまいります。最後に、今年の干支「羊」は、家族の安泰を示し平和に暮らすことを意味しているそうです。皆さまのこの一年の安泰をご祈念いたします。

